

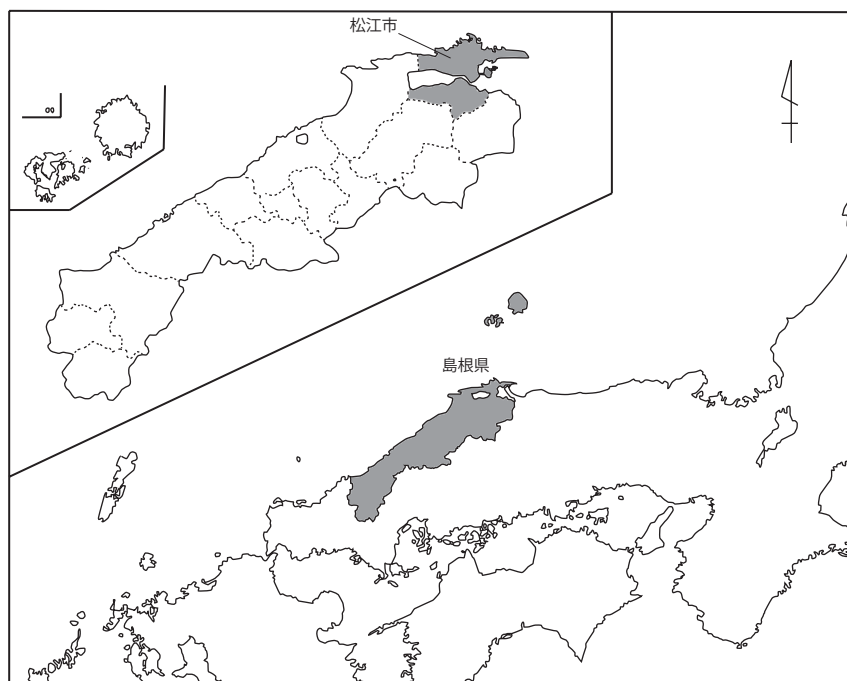
埋蔵文化財課年報 〈24〉

令和元年度



2021 年 3 月

公益財団法人 松江市スポーツ・文化振興財団

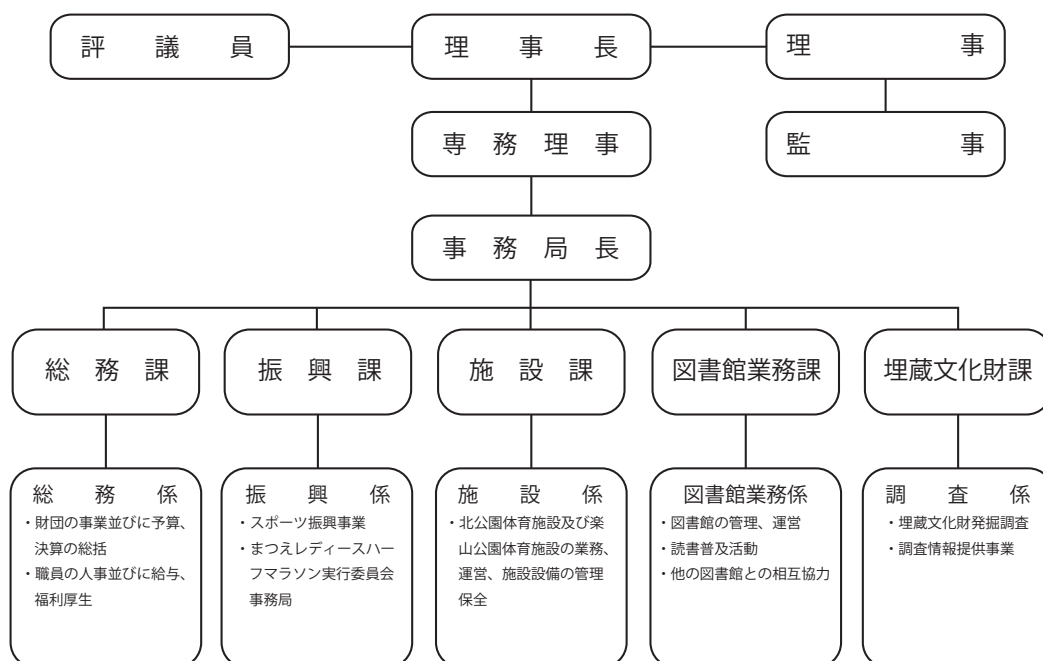


松江市位置図

表紙写真：奥宇田瀬遺跡調査後全景

第1章 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和 51 年（1976 年）4 月 1 日 財団法人松江市教育文化振興事業団を設立
- ◇ 沿 革 平成 25 年（2013 年）4 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行
平成 28 年（2016 年）7 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更
- ◇ 所在地 松江市末次町 86 番地
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業 (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業
(2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業
(3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動推進に関する事業
(4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業
(5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業
(6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業
(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- ◇ 組 織 平成 31 年 4 月 1 日現在



◇ 埋蔵文化財課

設 立 平成 5 年 7 月 1 日

所 在 地 〒 690-0401 島根県松江市島根町加賀 1263-1

T E L 0 8 5 2 - 8 5 - 9 2 1 0

F A X 0 8 5 2 - 8 5 - 3 6 1 1

業 務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2) 埋蔵文化財課の庶務経理 (予算及び決算を含む) に関すること。

◇ 令和元年度 職員体制

理事長 星野芳伸

専務理事 安部 隆

事務局長 菅井公治

埋蔵文化財課長 赤澤秀則

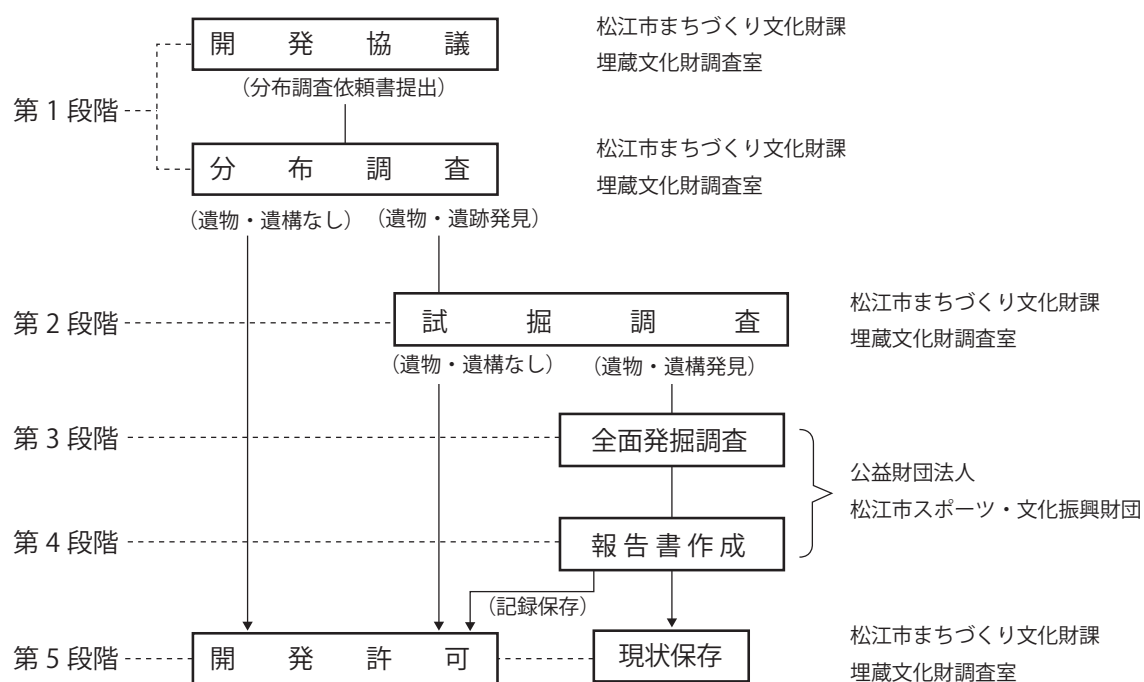
主任 江川幸子 小山泰生

嘱託職員 (調査員) 廣濱貴子 徳永桃代

嘱託職員 (調査補助員) 北島和子 宇津直樹 木村由希江 門脇祐介 福光龍治

嘱託職員 (事務) 後藤哲男 曾田 健 田中由巳 中金拓生

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第2章 令和元年度事業の概要

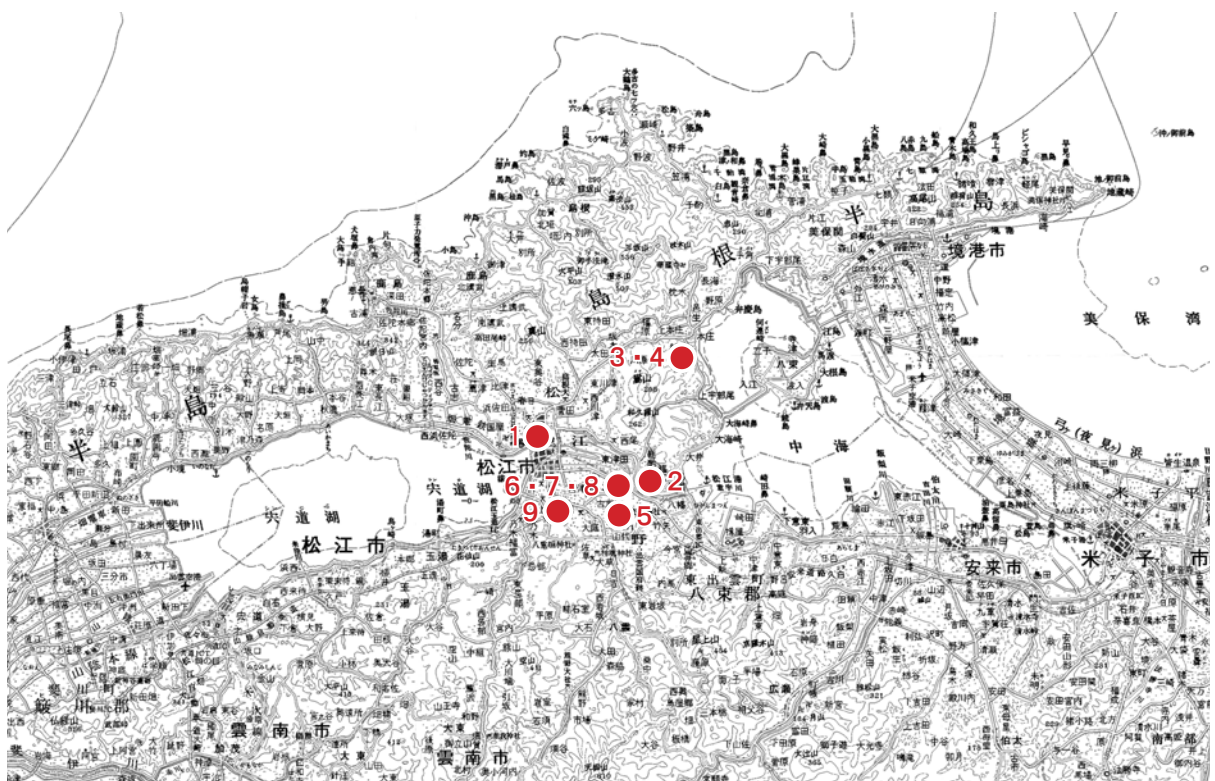
公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、令和元年度において4班体制で、9遺跡の発掘調査と3冊の発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

山陰制御所設置に伴う島根支社本館改造工事(地下タンク設置工事)に係る松江城下町遺跡(母衣町115)、朝酌矢田地区共同墓地整備事業に伴う若宮谷遺跡、新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業に伴うドロケ遺跡(2区)および新庄谷内遺跡、宅地造成工事に伴う神田Ⅱ遺跡、(仮称)グリーンテラス東津田団地造成事業に伴う岩井手谷遺跡・南外古墳群(南外5号墳)・奥宇田瀬遺跡、(仮称)アバンシティー上乃木Ⅱ造成工事に伴う乃木西廻遺跡の9遺跡の発掘調査を実施した。

2. 報告書作成

令和元年度は、L.L.C ういんぐ移設事業に伴う堤ノ上遺跡、大橋川朝酌矢田(移転先)個人住宅新築工事に伴う朝酌矢田遺跡、市道福富10号線外2線道路改良工事に伴う福富松ノ前遺跡の3冊の発掘調査報告書を刊行した。

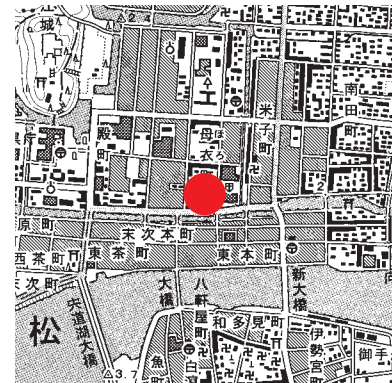


令和元年度発掘調査箇所位置図

- | | | |
|--------------------|-----------|---------------|
| 1. 松江城下町遺跡(母衣町115) | 4. 新庄谷内遺跡 | 7. 南外古墳群(5号墳) |
| 2. 若宮谷遺跡 | 5. 神田Ⅱ遺跡 | 8. 奥宇田瀬遺跡 |
| 3. ドロケ遺跡(2区) | 6. 岩井手谷遺跡 | 9. 乃木西廻遺跡 |

まつえじょうかまち ほろまち
松江城下町遺跡（母衣町 115）

1. 所在地 松江市母衣町 115 番地
2. 調査面積 26.2㎡
3. 調査期間 令和元年 9 月 9 日～10 月 28 日
4. 調査原因 中国電力島根支社地下タンク設置工事
5. 遺跡の種別 城下町
6. 遺跡の年代 近世
7. 調査の概要



調査地位置図

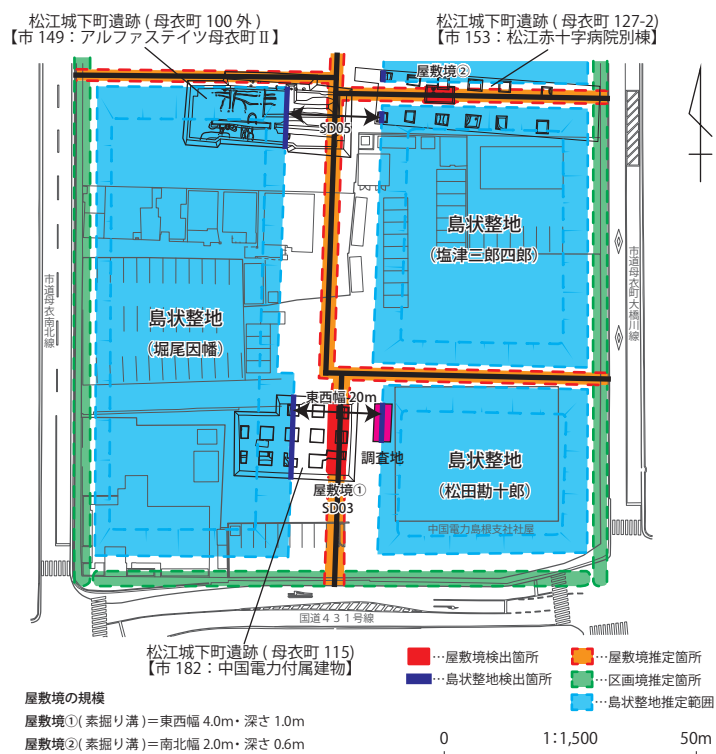
松江城下町遺跡（母衣町 115）は、松江城大手前から南東へ直線距離で約 500m 離れた地点に所在する。堀尾期・京極期・松平期の各絵図や文献に照らし合わせると、江戸時代には禄高 800～1000 石の侍屋敷（武家地）となっていた場所に比定される。絵図から想定される調査箇所は、街区の東西に配置されていた屋敷地のうち東側にあたる屋敷地の一部または屋敷地と屋敷地の境界付近にあたる場所の一部を調査したものと考えられる。

発掘調査では 5 つの遺構面を確認し、本遺跡と隣接地の調査成果を含めて明らかとなった「堀尾期における屋敷地の造成過程と屋敷境の位置関係」についての想定復元を以下に提示しておきたい。

屋敷地の初期造成は 17 世紀代初頭（堀尾期）の城下町形成段階に開始され、まず街区全体を区画するために、街区の外郭ラインに沿って区画境の掘削を行う。これとほぼ同時期に、街区内に配置される屋敷地の建物予定地だけに先行して島状整地を用いた盛土造成（第 1 次造成）を行い、その後の段階で屋敷地の平坦化を目的とした盛土造成（第 2 次造成）を行う。この第 1 次造成から第 2 次造成に至るまでの期間はあまり時間差を置かずに施された、一連の造成工法であった可能性を考えている。そして、屋敷地の平坦化を行った後の段階に、屋敷地の側面や背割にあたる部分に屋敷境（素掘り溝）を構築することで、街区内に配置される各屋敷地の屋敷割を明確にしている。

今回の調査では、城下町形成以前の状況や城下町形成段階の屋敷地の造成工法など、文献史料には残っていない当時の姿を再認識することができた。

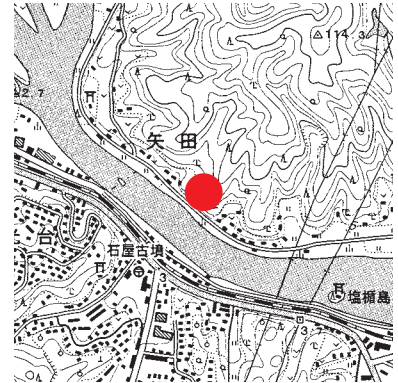
（小山泰生）



堀尾期における屋敷地の造成過程と屋敷境の想定復元

わかみやだに 若宮谷遺跡

1. 所在地 松江市朝酌町 1034 番地 1 外
2. 調査面積 581m²
3. 調査期間 令和元年 11 月 20 日～令和 2 年 3 月 23 日
4. 調査原因 朝酌矢田地区共同墓地整備事業
5. 遺跡の種別 集落跡
6. 遺跡の年代 古墳時代・古代・中世
7. 調査の概要



調査地位置図

若宮谷遺跡は、松江市を東西に流れる大橋川が最も川幅を狭めるところの北側の低丘陵上に立地し、大橋川を挟んで対岸の市街地を間近に望む場所に所在する。発掘調査対象箇所は、南西向きの緩斜面と近年まで水田となっていた平坦地が該当する。調査区は発掘調査対象範囲のうち、調査 1 ～ 4 区の 4 箇所に設定して調査を進めた。

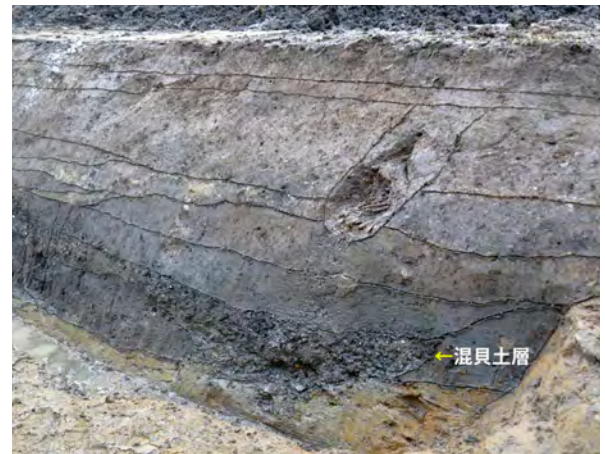
今回の調査では、調査 1 区で検出した中世の混貝土層 SM01 ～ 05（貝塚）のまとまった資料が得られたことが大きな調査成果のひとつである。調査時に 50cm 四方のグリッドごとに採取した貝層は、土嚢袋 180 個におよぶ。その後の貝層整理作業（洗浄・分類）で確認した動物遺存体は、貝類ではヤマトシジミ・サルボウガイ・微小貝、魚類ではアオザメ（椎骨）・イタチザメ（歯）・ボラ（主鰓蓋骨）、獣骨類ではイヌ（下顎骨）・シカ（椎骨）などがある。これらの動物遺存体から当地における中世集落の生活の一端や周辺環境を復元するうえで、貴重な資料が得られた。

遺跡の全体的な評価として、本遺跡は古墳時代前期（3 ～ 4 世紀代）・古代（7 ～ 8 世紀代）・中世（13 ～ 15 世紀代）を主体とする複合遺跡であることが明らかとなった。また、調査 1 区と 3 区の最下層に堆積する砂礫層から、少量ではあるが縄文土器や弥生土器が出土していることは、付近に縄文～弥生時代の遺跡の存在を想定させるものである。今後は、本遺跡の西隣で実施されている若宮谷遺跡（県本調査箇所）の調査成果を踏まえた詳細な検討を要するが、今回の調査によって当地域における各時期の様相を知るうえで有意義な資料が得られたものと考えている。

（小山泰生）



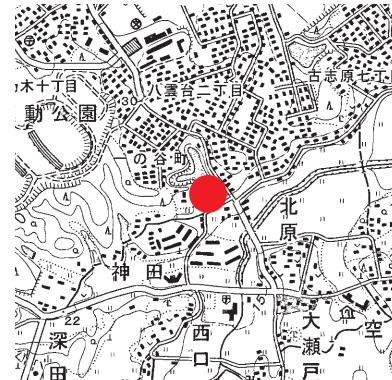
SM01 ～ 05 貝層プラン検出状況（南から）



1 区西壁混貝土層堆積状況（北東から）

かみ でん 神 田 II 遺 跡

1. 所在地 松江市大庭町字神田 1359 番地 1
2. 調査面積 107.7㎡
3. 調査期間 令和2年2月14日～3月26日
4. 調査原因 宅地造成工事
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 古代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

神田Ⅱ遺跡は、大庭町地内にある畑地で、標高約18～21mを測る低丘陵に所在する。遺跡の西側に隣接する住宅団地では、平成16・18年度に松江市文化財課による発掘調査が行われている。

今回は工事で影響を受ける範囲を1～3区に分けて発掘調査を実施した。遺構は、掘立柱建物跡・加工段・溝を検出し、古代の須恵器片や土師器片などの遺物が出土した。

検出した掘立柱建物跡の柱穴は直径約50cm以下のものが多く、建物の規模は大きいものではないが、古代の集落跡が存在していたものと考えられる。平成16年度に実施された調査でも同じ規模をもつ掘立柱建物跡や加工段を検出しており、出土遺物も同様な様相を示すことから、今回検出した遺構は当地周辺に存在していた古代の集落跡に含まれることが想定される。

今後の報告書作成段階において、今回と平成16・18年度の調査成果とを併せて、さらに周辺の遺跡を含めて総合的に検討することで、遺跡全体の具体像が明らかにできるものとする。

(徳永桃代)



神田Ⅱ遺跡完掘状況(北西から)

新 庄 谷 内 遺 跡

1. 所 在 地 松江市新庄町 815 番地 1 外
2. 調 査 面 積 1,537m²
3. 調 査 期 間 令和元年 9 月 12 日～令和 2 年 1 月 29 日
4. 調 査 原 因 農地整備事業
5. 遺跡の種類 散布地・集落跡
6. 遺跡の年代 古墳時代・古代・中世・近世
7. 遺跡の概要



調査地位置図

新庄谷内遺跡は、西側に嵩山を母体とする丘陵を擁し、その丘陵裾から広がる扇状地に設けられた水田に所在する。調査区の南側には「新川」と呼ばれる川が流れている。

遺構面は、遺物を含まない土石流堆積層と偽礫混じりの粘土層を基盤として、西から東に向かって緩やかに傾斜している。遺構面の上層には中世～近世の遺物のほかに、古墳時代～古代の遺物を大量に含む遺物包含層が厚く堆積していた。

遺物包含層の調査では、調査区南西側で主に中世～近世にかけての遺物が出土し、調査区東側に向かって中世の遺物が少量認められたが古代の遺物が大半で、次いで古墳時代の遺物が多く出土した。

遺構は、調査区南半を中心に多数の柱穴が見つかり、掘立柱建物が存在していたことが分かった。検出した掘立柱建物跡は数回の建て替えが行われたようで、復元案として 8 棟分の建物を想定した。

調査区西側の掘立柱建物跡では、柱穴から中世の青磁碗片や近世の小柄が出土した。調査区東側の掘立柱建物跡では、柱穴から主に古代の須恵器が出土したため、当初は古代の建物跡と考えていた。しかし、柱穴に柱材が残るものがあり、これらを AMS 年代測定にかけたところ、いずれも中世あるいは中世～近世の年代を指し示す結果を得た。これにより、調査区で検出した掘立柱建物跡の年代は、中世あるいは中世～近世にかけてのものと想定される。

ただし、遺物包含層の出土遺物に、古くは古墳時代前期、そして古墳時代末～古代にかけてのものが多く含まれることから、付近にこの時期の集落が存在していた可能性は高いものと考えている。

今回の調査により、調査地周辺が古墳時代から近世まで長く営まれ続けていたことがわかる調査成果が得られた。

(徳永桃代)



新庄谷内遺跡遠景 (西から)

ドロケ遺跡（2区）

1. 所在地 松江市新庄町 806 番地外
2. 調査面積 527.6㎡
3. 調査期間 令和元年 5 月 28 日～ 8 月 27 日
4. 調査原因 農地整備事業
5. 遺跡の種類 散布地
6. 遺跡の年代 古墳時代・古代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

ドロケ遺跡（2区）は、南側に嵩山を母体とする丘陵を擁し、その丘陵裾から広がる扇状地に設けられた水田に所在する。調査区の南側には「新川」と呼ばれる川が流れている一方、久羅弥神社の谷筋の流れとの合流地点に位置する。

前年度に実施した 1 区の調査では、礫の堆積を主体とする自然流路（NR01 ～ 03）を 3 条検出しており、2 区でもこの自然流路の続きを検出した。

NR01 では大量の須恵器片と土師器片が出土しており、土製支脚や甑の取手などが認められた。遺物の時期は 7 世紀末～ 8 世紀にかけてのものが主体で、古墳時代中期のものも少量存在する。特筆すべき遺物として、木製の「牛のはなぐり」が出土していることが挙げられる。

NR02-1 の西端部では杭列を検出しており、護岸施設の可能性が考えられる。出土遺物の様相は NR01 と同様である。NR02-2 では 10 個体分はあると思われる小形丸底壺や土師器高坏といった古

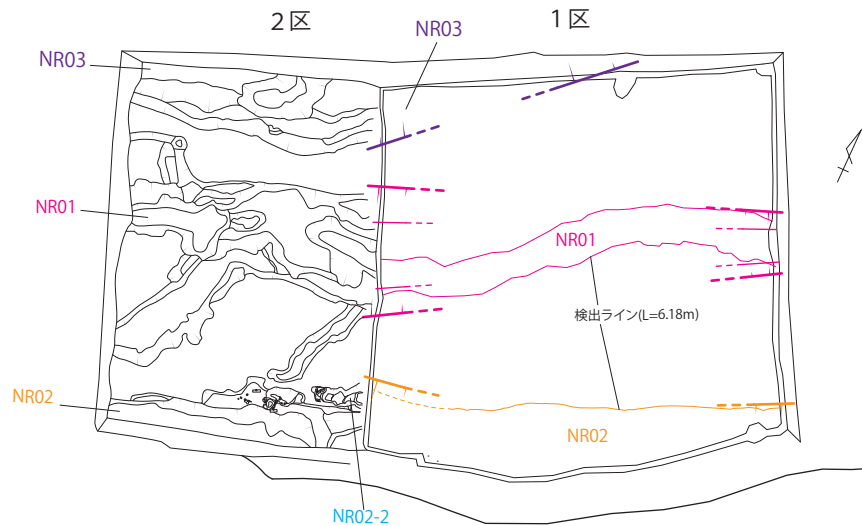


ドロケ遺跡 2 区完掘状況（南東から）

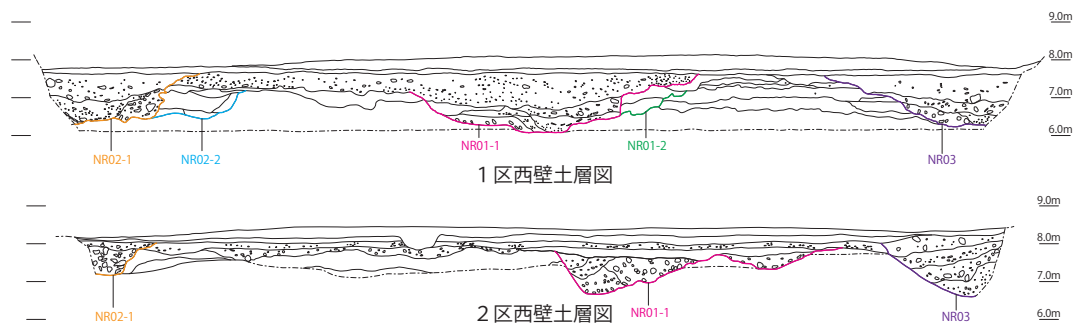
埴時代前期後葉の土師器が一括で出土した。これらは水辺の祭祀に関係する可能性も考えられる。

NR03 では 1 区と同様に出土遺物は認められなかった。これらの遺構から出土した遺物の中には、1 区で確認している溶着した須恵器片も含まれている。

以上のことから、付近に須恵器生産を伴う大規模な集落の存在が窺える。当地周辺は、古代あるいはそれ以前の様相があまり知られていない地域であり、今回の調査結果が今後この地域の歴史的具體像を解明する際の一助になるものと思われる。
(徳永桃代)



遺構平面図 S=1:500



土層断面図 S=1:200



NR02-2 出土遺物 S=1:3



NR01 牛のはなぐり出土状況

いわいで 岩井手谷 遺跡

1. 所在地 松江市東津田町字岩井手谷 929 番 5
2. 調査面積 493㎡
3. 調査期間 平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 8 月 30 日
4. 調査原因 (仮称) グリーンテラス東津田団地造成事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 縄文時代・古墳時代・古代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

岩井手谷遺跡は、『出雲国風土記』に記載のある山代郷北新造院の北西約 150m に位置し、小さな谷を挟んで東西の緩斜面からなる伏流水に恵まれた丘陵上に所在する。発掘調査では縄文時代の落とし穴や黒曜石の鋳や剥片が出土し、当時はこのあたりで狩猟が行われたようである。また、古墳時代中期の遺物を伴う焼土痕跡のある平坦面が検出され、明確な建物跡は復元できなかったものの、人々の生活の場となっている。古墳時代中期の遺構面は、本遺跡と並行して調査を実施した南外古墳群との関わりが想定される生活遺跡の一部と推定している。

さらに、本遺跡は 12 世紀まで継続したとされる山代郷北新造院の一時期と並行して営まれていた点が注目される。古代の土師器が大量に廃棄されたように出土したほか、基石も出土した。銅碗の口縁部の破片 2 点の出土は明らかに山代郷北新造院と密接に関連する遺跡であることを物語っている。

(江川幸子)



岩井手谷遺跡完掘状況 (南東から)

南外 5 号 墳

1. 所在地 松江市東津田町字南外 2296 番 56 外
2. 調査面積 566.3m²
3. 調査期間 平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 8 月 30 日
4. 調査原因 (仮称) グリーンテラス東津田団地造成事業
5. 遺跡の種類 古墳
6. 遺跡の年代 古墳時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

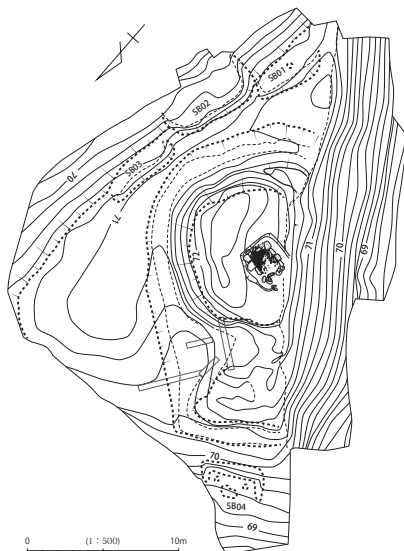
南外古墳群は、松江市を東西に流れる大橋川の南岸に位置する東津田町の丘陵上に所在する。5 基の古墳が確認されており、1 号墳は約 20 m の前方後円墳、3 号墳は円墳、2 号墳・4 号墳は方墳である。5 号墳の調査を平成 31 年 4 月～令和元年 8 月まで行った。

南外 5 号墳は、本古墳群のなかでも最高所（約 73m）に位置する帆立貝形の前方向後方墳である。墳丘の南東側は後世の削平により失われている。墳丘は全長 18.5m、周囲には幅約 2.0 m の浅い周溝が巡る。墳丘は旧表土の上に盛土して造られ、後円部の築造にあたっては崩壊を防ぐように 1 列から 3 列のブロック状の土留めを置いている。このような工法は南外 2 号墳でも確認されている。主体部は横穴式石室である。石室は左側壁の一部と基底石が残存し、奥行 2.0 m、幅 1.4 m を測る。

調査成果から、玄門部は両袖で^{かまちいし} 框石を置いており、また羨道が短いことから九州系の横穴式石室と考えられる。遺物は、主体部から須恵器の坏蓋・土師器の碗・勾玉・鉄器片が、周溝埋土から須恵器の有蓋高坏・埴瓶が出土している。石室出土の須恵器は 6 世紀前半（出雲 2 期）の古段階のもので、本古墳の横穴式石室は出雲地方での導入期の石室であることが明らかになった。

今回の調査成果はこれまでの南外古墳群の調査と併せ、古墳が多く存在する橋南地域の 5 世紀末～6 世紀前半頃の動向を知り得る調査例となった。

(廣濱貴子)



南外 5 号墳調査後実測図



南外 5 号墳全景（北から）

おく　　う　　た　　せ 奥　　宇　　田　　瀬　　遺　　跡

1. 所在地 松江市矢田町字奥宇田瀬 508 番 1 外
2. 調査面積 1,487m²
3. 調査期間 令和元年 9 月 2 日～令和 2 年 3 月 23 日
4. 調査原因 (仮称) グリーンテラス東津田団地造成事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 古墳時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

奥宇田瀬遺跡は、丘陵谷部の北側緩斜面（標高 26 ～ 34 m）に所在する。調査地東側は以前、水田として利用され、その後緩斜面上部の土で造成されている。調査は最初に表土と造成土・水田の耕作土を重機で掘削した後、遺構面の精査を行った。その結果、竪穴建物・掘立柱建物・加工段・ピット・狩猟用の落とし穴を検出した。竪穴建物は建て替えを含めて 19 棟確認され、なかでも注目されるのは調査区南端に位置する SI03 である。

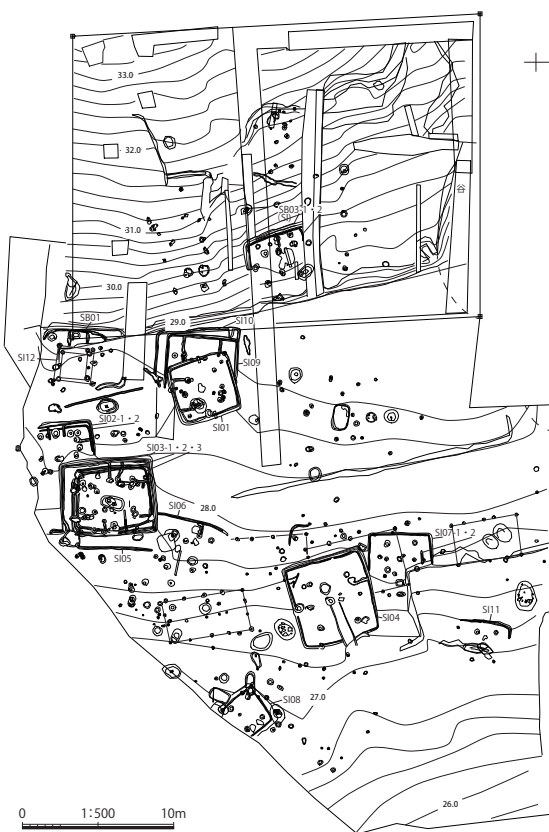
SI03 は 2 回の建て替えが行われ、新旧関係は古い方から SI03-3 ➡ SI03-2 ➡ SI03-1 となる。SI03-1 は南北 6.3 m × 東西 5.0 m の建物で、覆土や遺構内から須恵器の坏蓋・牛角付碗・土師器の甕のほか、水晶・石英・瑪瑙の剥片や細片が出土している。特に水晶の未製品や剥片が多いことから水晶の玉製作を主とした工房の可能性が高い。出土した遺物の時期から 6 世紀前半頃の建物で、SI03-1・SI03-2 出土遺物と時期差がないことから、短期間に建て替えられたものと思われる。

その他の竪穴建物についても SI03-1 と大差ない時期の遺物が出土しており、6 世紀前半頃に緩斜面に集落が形成されていたようである。

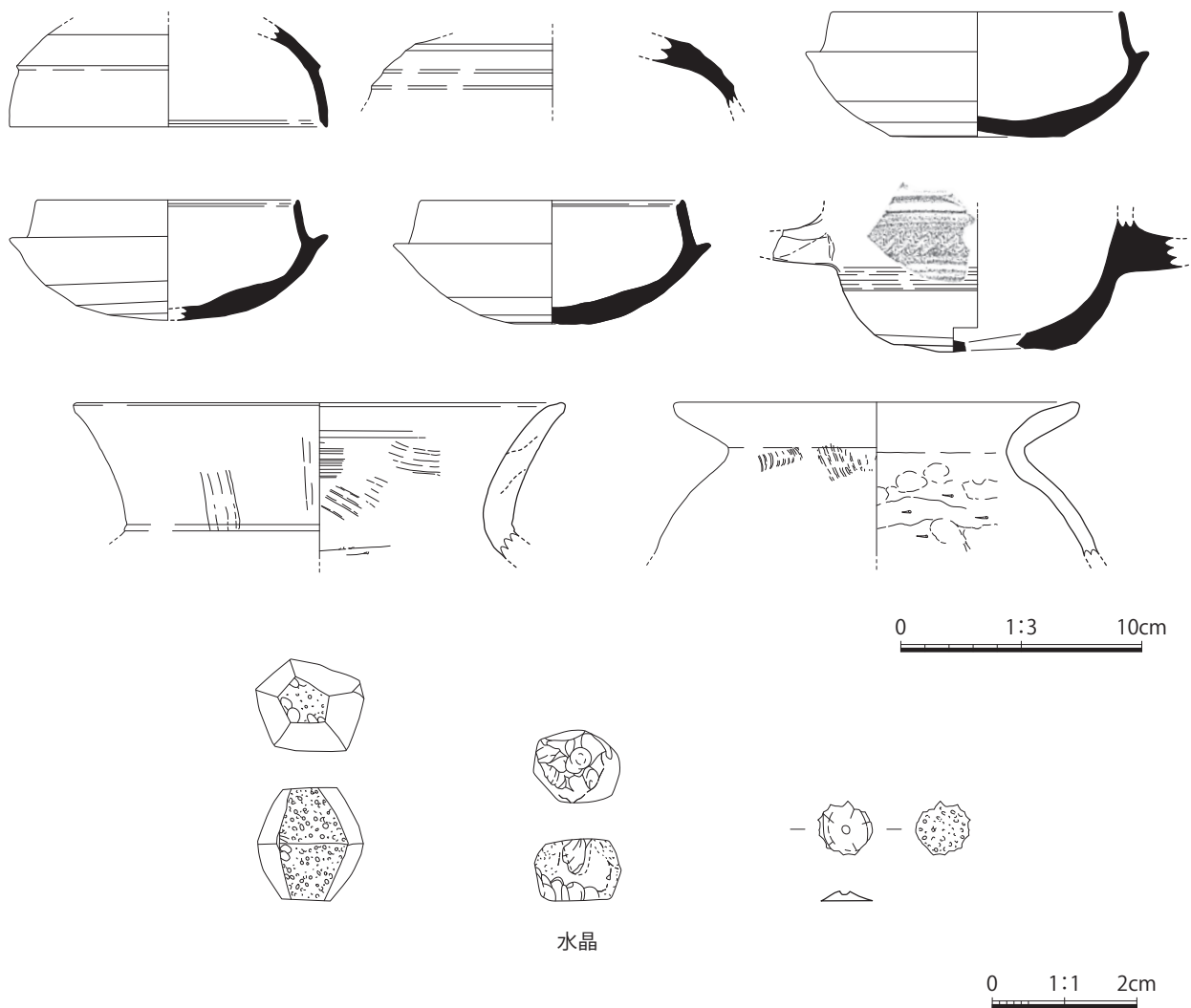
これらの遺構のほか、古代の加工段や縄文時代と思われる狩猟用の落とし穴があり、この緩斜面の変遷を垣間見ることができる。

前述した SI03-1 は、時期的に本遺跡北西側に位置する南外 5 号墳と並行した時期に営まれており、その関連性が窺える。また、工房跡では周辺に弥生時代の工房跡である平所遺跡、鉄製品・玉類が出土している古墳時代中期の寺山小田遺跡が所在しており、意宇平野周辺の生産集団の動向が検討される。今回の調査成果は、集落遺跡や工房跡を考えるうえで有意義な資料となり得た。

(廣濱貴子)



奥宇田瀬遺跡完掘後実測図



SI03-1 出土遺物実測図



SI01・03 完掘状況（東から）

※今後正式に報告書を刊行するため、内容が変わる場合があります。

第3章 令和元年度以前の調査

H27 年度以前の調査は www.matsue-sposhin.jp/maibun_cyousa.html を参照ください。

年度	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 概 要	報告書
H 28	魚見塚遺跡	朝酌町	古代の道路を検出した。直線的な敷設を指向し、『出雲国風土記』記載の「枉北道」の可能性が高い。	2018 刊
H 28	光泉寺遺跡	山代町	古代から近世の柱穴等を検出。中世の掘立柱建物は、隣接する山代沖田遺跡のものと連続する遺構と考えられる。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	母衣町 115	江戸時代の屋敷地内を調査。洪水堆積の様相を呈する砂礫層を検出。	2018 刊
H 28	松江城下町遺跡	南田町 108-1 外	城下町形成段階に掘削された幅 4.2m の素掘りの大溝を検出。埋戻しの際には旧地表面のラミナ層のみを使用していた。	2018 刊
H 28	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	古代道（枉北道）に接続する可能性のある道路遺構と集落跡を検出。	2018 刊
H 28	柏木遺跡	西持田町	弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を 16 カ所で行った。屋敷境溝・石列等を検出。南田町では幅 8m を超える屋敷境溝を確認。	2018 刊
H 29	松江城下町遺跡	殿町 198-7	城下町形成段階に掘削された推定幅 4.0m の素掘りの大溝を検出。18 世紀代の遺構面から上水井戸を検出。	2018 刊
H 29	柏木遺跡	西持田町	前年度継続。弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査。	2018 刊
H 29	礫岩古墳	野原町	かつて古墳が存在したと考えられるが、のちに山城築城のため、削平される。山城の竪堀や加工段を検出。	2018 刊
H 29	朝酌橋ノ谷遺跡	朝酌町	弥生後期から古墳前期の竪穴建物、古代の掘立柱建物などを検出。	2018 刊
H 29	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	前年度継続。古墳時代の土器棺墓を検出。その他に奈良時代の集落跡や道路遺構を検出。	2018 刊
H 29	海崎古墳群	美保関町	古墳時代中期から後期の古墳群。竪穴系横口式石室と横穴式石室を調査。	2018 刊
H 29	福浦法田峠 2 号墳	美保関町	報告書編集事業。小規模な横穴式石室墳の調査。2 次墳丘、古墳築造前の祭祀を確認。	2018 刊
H 30	白岸古墳群	黒田町	古墳時代中期の小規模古墳群。主体部は素掘りの土壇。	2018 刊
H 30	朝酌矢田遺跡	朝酌町	近世の建物跡の一部を検出。縄文時代・古代の遺物を少量確認。	2019 刊
H 30	堤ノ上遺跡	東持田町	弥生時代から近世の複合遺跡。古墳時代中期と古代の掘立柱建物を中心とする集落。近世墓群も検出。	2019 刊
H 30	朝酌菖蒲谷遺跡 (低地部)	朝酌町	斜面部から転落した古代を中心とする遺物包含層を調査。下層から縄文時代の貯蔵穴を検出。	未刊
H 30	ドロケ遺跡 (1 区)	新庄町	古代を中心とする旧河道を検出。大量の遺物が出土。円面硯の焼損品などが出土。上流に窯跡の存在を推定。	未刊
H 30	南外古墳群 (3・4・5 号墳)	東津田町	3 号墳：円墳。4 号墳：方墳。5 号墳：帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ残存。	未刊
R 1	松江城下町遺跡	母衣町 115	城下町初期造成段階に施された鳥状整地の盛土痕跡を検出。19 世紀代の遺構面から石組水路・廃棄土坑を検出。	2020 刊
R 1	若宮谷遺跡	朝酌町	谷地形に堆積する古墳時代から古代の遺物包含層を調査。調査区西側では中世の混貝土層（貝塚）を検出。	未刊
R 1	ドロケ遺跡 (2 区)	新庄町	前年度のドロケ遺跡 1 区の調査で検出した自然流路の続きを面的に確認。古代の須恵器・土師器等の遺物が大量に出土。	未刊
R 1	新庄谷内遺跡	新庄町	多数の柱穴を検出し、8 棟の掘立柱建物を想定復元。古墳時代から古代の遺物包含層を調査。	未刊
R 1	神田Ⅱ遺跡	大庭町	掘立柱建物・加工段等を検出。古代の須恵器・土師器等の遺物が出土。	2021 刊
R 1	岩井手谷遺跡	東津田町	縄文時代・古墳時代中期・古代の 3 時期にわたる遺構と遺物を検出。	未刊
R 1	南外古墳群 (5 号墳)	東津田町	前年度継続。5 号墳：帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ残存。墳丘旧表土面以下から旧石器時代の石器が出土。	未刊
R 1	奥宇田瀬遺跡	東津田町	竪穴建物・掘立柱建物・加工段・狩猟用の落とし穴等を検出。竪穴建物は建て替えを含めて 19 棟確認。水晶の玉製作を主とした工房跡も検出。	未刊
R 1	乃木西廻遺跡	上乃木	縄文時代の狩猟用の落とし穴、弥生時代後期の竪穴建物を 5 棟検出。	未刊

埋蔵文化財課年報〈24〉

2021 年 3 月発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

千鳥印刷株式会社

島根県松江市春日町 344-2